

CONTENTS

有機農家にインタビュー！ ○農事組合法人 百姓天国さん	1
宣言者のページ ○かきのき保育所	
有機農業現地からのレポート ○江津市有機農業推進協議会	2
土居さんが行く！ 『地域の有機農業活動レポート』	3
有限会社 やさか共同農場 農林水産大臣賞表彰報告 BSSまつり出展報告	4
シリーズ第29弾「環境農業」トピック	5
行事予定	6



『環境農業』に関する県の考え方や事業の進行状況をリアルタイムでお伝えし、皆さまとネットワークを結ぶことを目標としています。

有機農家にインタビュー！～農事組合法人 百姓天国さん～

「環境負荷の少ない農業を行い、この地域を美しく守り、全体を丸ごとアピールしていきたい。」

5月の連休過ぎから始まる田植え準備の忙しい最中にインタビューを受けていただいた大谷代表理事と三島事務局長。

今回は、平成19年に法人化し大田市三瓶町で有機水稻やレンゲ米をはじめとした農産物の生産や、モチなどの加工品を製造、販売している、農事組合法人百姓天国さんを紹介します。

法人化が新たなことに取り組むきっかけになりました

平成19年に法人化したのが、近隣の法人と比べてもスケールメリットが生かせるほど規模も大きくなく、それまでの単純な米作りだけでは経営が成り立たず、それに伴い地域も衰退してしまうと考えたとのこと。

「何か、特色のある取り組みを探している中で、これからは環境負荷を低減することが必要となる時代になると考え、レンゲ米の栽培を始めました」

レンゲをすき込むことで、化学肥料を減らすことができ、景観の向上も図ることができる。

今では、きれいなレンゲの花を見に観光客が訪れ、レンゲ米も口コミで徐々にお客さんが増えているそう。

その後、さらに環境保全への取り組みを進めるために、平成26年から農薬や化学肥料不使用の米の生産を開始し、これまでの直売だけでなく近隣のスーパーを含めて、新たな販路の拡大を図っている。



地域の女性にも活躍してもらっています

平成25年からは地域の女性を中心として加工事業にも取り組んでおり、法人で作ったモチ米を使ったモチや大福、こんにゃくなどの加工食品を製造している。

まだまだ生産量は少ないが、こちらも特色あるものを作り、消費者の皆さまへの新たな提案を考えているところだ。



現状維持は衰退の第一歩 これからも新たなことに取り組んでいきたい

「これからは、この地域にとどまらず、近隣の地域と一緒に米のブランド化も考えていきたい。」と先を見据える。

ただ、生産量を増やしていくことで、これまで以上の販売先確保も必要となってくるので、これからは様々な商談会やイベントに積極的に出かけて行きたいとのこと。

地域全体を守るために、新たなことにどんどん取り組んでいくという(農)百姓天国さん。

次はどんな動きを見せてくれるのが楽しみだ。

プロフィール

のうじくみあいほうじん ひゃくしょうてんごく
平成15年に設立した任意の集落営農組織から、平成19年5月に法人化。
水稻を中心に、農産加工品にも取り組む集落営農型の法人。
現在の主な販売先は近隣のスーパーや直売など。
Facebookも運営中!「農事組合法人百姓天国」
(<https://ja-jp.facebook.com/hyakusyoutennngoku>)

【県農産園芸課有機農業グループ】

豊かな自然の中で豊かな食を

社会福祉法人かきのき保育所

毎年「キッズエクスプレス21」というNPO法人主催の全国食育コンテストがあり、かきのき保育所はこのコンテストに応募をしたところ、2月に厚生労働大臣賞という名誉ある賞を受賞しました。去る2月27日、東京で行われた授賞式に参加、食育活動の発表もあわせて行い、有機の里、柿木村を全国に向けて発信することができました。

かきのき保育所では、5年前から野菜くずやぼかしを使った畑の土作りの取り組みをはじめ、昨年度は元気な野菜が育ち、「有機野菜を給食に」というテーマで年長児と担任、調理師が連携し、季節の有機野菜を使って給食の一品をつくってきました。題して「うちら〜かき保のリトルシェフ」!!

子ども自ら楽しんで食育活動にかかわる姿や、継続した取り組みの中で子どものさまざまな気づきや主体性がうまれているところ、また、食育活動を通して生活の中でも考える力や工夫する力などが育っている点を評価していただきました。今後もこの豊かな自然の中で豊かな食の取り組みを続けていきたいと思ひます。



「みんなでひろげる有機の郷事業」を活用した生産者からのレポートです

『しまね有機の郷』
現地レポート

第3回

江津市
江津市有機農業推進協議会さん



江津市有機農業推進協議会の取り組み ～地域活動支援事業の活用～

江津市有機農業推進協議会は、生産者、流通・販売者及び行政・関係団体が連携し、安心安全な農産物の生産・流通拡大や就農者の確保・育成を目的とし平成26年11月6日に発足しました。

当協議会は平成26、27年度において、みんなでひろげる有機の郷事業（地域活動支援事業）を活用し、主に有機農業の仲間づくりや食育・地産地消の推進活動を行ってきました。

有機農業の仲間づくりでは、初心者向けの実践講座を月1回開催し、毎回30人程度の受講者が熱心に有機農業を学び、生産者間の交流や技術の向上を図りました。

食育・地産地消の推進では、県と連携して開催した子育て世代の食育講座、市内催事での有機農産物販売ブースの出店等の普及啓発活動に取り組みました。

平成28年度も引き続き、生産者・消費者の連携を図りながら安心安全な農産物の生産・流通拡大や普及啓発活動に取り組むこととしています。



新コーナー

土居さんが行く!



『地域の有機農業活動レポート』

県内各地を歩いて有機農業の普及に日々奮闘しておられる土居さんからの活動報告です。



加茂遊学ファーム有機栽培講座

今回は、私が講師を勤めている雲南市の加茂遊学ファーム直売所2階で、4年前から開催されている有機栽培講座のご紹介をいたします。

ここでは3月から12月まで、毎月1回講座を開催しています。案内は市内の有線放送でなされており、参加者はほとんど地元ですが、大体10~20名位参加されます。

基本的に座学だけでなく実際の畑を使った実習もあり、面積は約2アール程度で砂地です。最近、年間3~4回の座学、あとは実習のみの講座を行っています。

植えている作物は、コマツナ、チンゲン菜、ジャガイモ、ニンジン、大豆、地這キュウリ、サツマイモ、ナバナ、ミニトマト等です。砂地のため乾燥しやすく、地力もないため、特に水や肥料を多く必要とする作物は厳しいです。実験でほかの野菜も試しています。基本的には直売所のニーズに出来るだけ合わせるように努めています。

土づくりは、購入の家畜堆肥と昨年仕込んだ落葉堆肥がほぼ出来上がったので、堆肥との比較実験も併せて行っており、出来た野菜の味比べも行うようにしています。また、緑肥(ヘアリベッチ)を使っての実験、畑の周りには障壁作物としてソルゴーも作付しています。

また出来た野菜を畑でも食べられるよう、瓦ストーブを実習畑に設置しており、好評をいただいています。

毎回試行錯誤で行っているため、栽培における失敗も結構あります。また、この講座は「楽しく」行う事を基本におき、あまり難しくせずに行うよう努めています。時には参加者から逆にアドバイスを受れたり、色々と試していただいたりもしております。

自由参加ですので、関心のある方は是非お越しください。参加費は基本的に無料です。



○連絡先 加茂遊学ファーム直売所：0854-49-8089
受入窓口：有田 090-7597-9766
土居 090-7772-7181

平成27年度 環境保全型農業推進コンクール有機農業の部で 有限会社 やさか共同農場が 農林水産大臣賞を受賞!!

有機農業をはじめとする環境保全型農業に意欲的に取り組む農業者を表彰する「平成27年度環境保全型農業推進コンクール」で、有限会社やさか共同農場が有機農業の部で農林水産大臣賞を受賞し、3月2日(水)に東京都の如水会館で表彰式が行われました。

やさか共同農場は、高度成長期の昭和47年に、若者4名が、当時、過疎化が進んでいた浜田市弥栄町(旧弥栄村)へ入村し、農薬や化学肥料に頼らない農業に取り組み、栽培した大豆を活用した味噌加工等を手掛けるなど、いち早く、有機農業を起点とした6次化の取組を進めてきました。

有機農業の生産、加工、販売に取り組む、やさか共同農場の事業展開は、過疎化に歯止めのかからない中山間地域での雇用創出にとどまらず、県内外からの研修生の受け入れによる就農者の定住など、地域活性化にも大きく貢献しています。

今後も引き続き、地域と連携しながら、有機農業の裾野の拡大に向けた更なる取り組みが期待されます。



山陰の消費者にPR!

「春のBSSまつりin松江」に“しまね有機の郷”ブースを出展!

3月19(土)、松江市のくにびきメッセで開催されたBSS山陰放送主催の「春のBSSまつり30thありがとうスペシャルin松江」に、有機農業への理解と島根の有機産品を身近に感じてもらうことを目的にブース出展を行いました。

ブース内では、景品が当たる「クイズコーナー」、アンケートに答えて抽選で有機産品やオリジナルエコグッズがもれなくもらえるコーナーを設け、両コーナーともたくさんの方にお立ち寄りいただきました。

特にアンケートコーナーでは、引換えの品が終了時間を待たずになくなってしまい、その後お見えになった方には申し訳ない状況となるほどの盛況ぶりでした。

「こんなシール、意識して見ていなかった」などの感想を多く聞き、このイベントを通して多くの方に関心を持っていただけたのではないかと思います。

県では、民間事業者への委託により県内消費拡大に向けた情報発信を行っており、今回の出展もその一環として実施したものです。平成28年度も民間事業者と連携し、より効果的な情報発信に取り組んでいくこととしています。



【県農産園芸課有機農業グループ】

有機農産物直売市運営に関する実態調査報告書を発刊しました!

新規就農者支援に取り組む有機農産物直売市の 運営実態と継続運営に向けたポイント

近年、有機農業に取り組む新規就農者を中心とした有機農産物直売市が全国で展開されるようになり、販路の確立していない新規就農者の新たな販売の「場」として注目されています。

このような直売市形式による販売は、販売量や規格などの自由度が高いため、技術力が未熟な新規就農者でも参入し易いという特徴を有しています。

この度、農業技術センターでは、10年以上継続して直売市を開催している名古屋市の優良事例を調査し、直売市運営を継続して行っていくためのポイントについて取りまとめましたので、その概要を紹介します。



優良事例の概要(名古屋市の直売市)

名古屋市栄に位置する当直売市は、これまで10年以上にわたり定期直売市を開催し、有機農業を志す新規就農者の安定した販路確保・確立に向けた支援を実施しています。近年では、有機農業を志す新規就農希望者の就農相談を実施するなど、就農相談から販売支援まで一貫した支援を行っています。また、この直売市を通じて24名が就農し、現在10名が研修を行っています。



直売市の様子



直売市の開催される都市型公園

直売市の継続運営に向けたポイント

Point①

直売市を毎週開催!

新規就農者の安定収入の確保

■毎週開催することで、直売市が単なる消費者との交流の場だけでなく、一定の収入が得られる販売の場として機能!

■これにより、出店者増加⇒来場者増加⇒売上増加!

Point②

直売市で就農相談を実施!

仲間が仲間を呼ぶ環境づくり

■就農相談コーナーの設置により、就農相談から研修農家・就農先の斡旋や販売支援を含めた総合支援を実施!

■研修生が就農・独立し、後輩の就農希望者に対する就農支援を実施する「好循環」を形成!

Point③

経費を掛けない組織運営!

ボランティアによる支援体制づくり

■直売市経営を軌道に乗せるまでには一定期間が必要!それら助走期間をボランティアで支える体制づくりが成功のカギ!

実態調査結果の詳細及び資料に関するお問い合わせは、下記まで御連絡ください。
県農業技術センター総務企画部企画調整スタッフ(経営担当) Tel:0853-22-6697

行事予定

『しまね有機農業なんでも座談会』を開催について

島根県内の有機農業や自然栽培等、環境にやさしい農に取り組む方・消費者、環境問題などに興味をお持ちの方など、島根の有機農業について皆さんで語りませんか？

下記の内容にて現在計画中ですので、ぜひご参加ください。

名 称	しまね有機農業なんでも座談会 in木次	問題解決アドバイザー	河野剛巳氏(こうのつよみ)
日 時	平成28年8月21日(日) 13:30~16:00	定 員	70名
場 所	サンワーク木次(木次勤労者総合福祉センター) 島根県雲南市木次町木次952番地29		
主な内容	有機農業に関するワークショップ 有機農業の地域間交流を図り、「有機農業の成功事例、失敗談、疑問点」等グループで話し合っ、未来の有機農業へつなげていこうと考えています。		
お問い合わせ先	特定非営利活動法人島根有機農業協会 TEL:0855-75-0017		



「有機しろげろ米づくり」水田除草機 実演会

島根県では、農業技術センターを中心に、水田除草機を雑草対策の基幹とした、水稲有機栽培技術の確立に取り組んでいます。この一環として、今年度も「有機しろげろ米づくり」実証ほを県内5か所(安来、松江、平田、斐川、大田)に設置し、現地での技術実証を進めているところです。

今回、機械除草を基軸とした有機栽培の技術体系について学んでいただくとともに、実証ほにおける水田用除草機の実演により、生産者並びに関係者の理解を深め、有機農業の面的拡大につなげることを目的として、以下の日程で実演会を開催します。水稲有機栽培に興味がある方、水稲有機栽培で雑草防除にお困りの方など、ふるってご参加ください。

参加をご希望される方は島根県農林水産部農産園芸課有機農業グループまでお申し込みください。

水田機械除草機実演会 日程

会 場	日 時	会 場	内 容
大 田	5月30日 10:30~	大田市三瓶山多根	水田除草機の実演
平 田	6月 3日 10:00~	出雲市久多見町	//
斐 川	6月 7日 10:00~	出雲市斐川町上直江	//
安 来	6月 7日 14:00~	安来市広瀬町富田	//
佐 田	6月 8日 10:00~	出雲市佐田町下橋波	講演会、水田除草機の実演

お問い合わせ先 県農林水産部農産園芸課有機農業グループ TEL:0852-22-6704



島根県有機農業グループの公式Facebookページを運用中!

f アカウント名 島根県有機農業グループ

FacebookURL: <https://www.facebook.com/shimane.yuuki>

*生産者からの情報提供も受け付けております。掲載、リンクを希望される場合には、有機農業グループ(0852-22-6477)までご連絡ください。



宣言の状況

(平成28年4月末現在)

3,825件

消費者の方……3,060件
農業者の方……628件
企業・学校等……136件
その他……1件

- この情報誌は、「環境を守る農業宣言」をした生産者や消費者の方及び関係機関に配布しています。
- ご意見、掲載希望、また配布停止を希望される方は、下記までご連絡ください。

発行・編集 島根県農林水産部農産園芸課 (平成28年6月1日発行)

〒690-8501 松江市殿町1番地 E-mail econousan@pref.shimane.lg.jp
TEL.0852-22-6704/FAX.0852-22-6036 URL <http://www.pref.shimane.lg.jp/nosan-engei/>
Facebookアカウント名「島根県有機農業グループ」 (<https://www.facebook.com/shimane.yuuki>)

